

研究課題名	大腸 T1b 癌における EUS と超拡大内視鏡観察の臨床的有用性に関する検討
研究期間	実施許可日 ～ 2030 年 12 月 31 日
研究の対象	2022年11月1日～2023年5月31日に、JNET分類Type 2BあるいはType 3と診断し、色素拡大観察、EUS、ECの全てを施行後に内視鏡または外科切除を行った大腸がん患者さん。
研究の目的・方法	研究目的：大腸腫瘍の質的診断では pit pattern 分類が最も精度が高いとされていますが、超音波内視鏡（EUS）や超拡大内視鏡（EC）の臨床的位置づけに関しては一定のコンセンサスはありません。今回、大腸 T1b 癌に対する EUS と EC 施行例の診断能を比較し、各モダリティの臨床的意義を明らかにすることです。 研究の方法：対象症例に関する臨床情報を電子カルテから収集し後ろ向き調査を行います。
研究に用いる試料・情報の種類	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は、年齢、性別、既往歴、内視鏡所見、治療法、病理組織学的所見などです。なお、個人を特定可能な情報は解析に使いません。
外部への試料・情報の提供	ありません
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日
個人情報の保護	氏名、住所、生年月日などの個人情報を削除し、個人情報とは無関係の番号を付け、どなたのデータか分からないよう加工します。個人識別情報と付加番号の対応表は個人情報管理者（研究責任者）が厳重に管理し、解析担当者には渡しません。調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。
研究組織	本学の研究責任者 広島大学大学院医系科学研究科消化器内科 教授 岡 志郎
その他	特になし
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。 また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5939

広島大学病院 消化器内科 教授 岡 志郎